

深井奨学財団（戸山高校奨学基金）からお礼とご報告

公益財団法人深井奨学財団 理事長 井上 尚男

城北会は戸山高校創立100周年記念事業の一環として深井奨学事業を再活性化するため1985年から寄附集めを開始し、100周年時には5000万円強の寄附を頂戴して新生深井奨学事業を始める事が出来ました。以来、城北会会員皆様の継続的なご支援のおかげで2023年3月末には、指定正味財産残高**1億9千7百万円**の規模まで本財団を成長させていただきました。ありがとうございました。

2022年度は、会員諸兄弟から頂戴したご寄附が、301名（件数324件）**総額4,477,000円**（予算：4,000,000円）となりました。厚く御礼申し上げます。なお、前年度のご寄附総額4,360,000円からは、微増となっております。本年度もぜひ多大のご支援の程をお願い申し上げます。

2014年度から新たに始めた「東京都立戸山高等学校の総合的な教育活動に対する助成」事業に対して、2022年度は、75名の個人会員から合計332,000円の寄附を頂戴しましたこと、御礼申し上げます。また、リカジョ育成賞副賞金（対戸山高校）として日産財団から300,000円を別途受け入れました。なお、深井奨学財団への寄附者のご氏名は、本誌第71号に掲載させていただき謝意を表します。

財団の2022年度の奨学事業実績は、深井奨学給付生34名に397万円、大学入学お祝い金については、現役生9名、既卒2名（一人24万円・30万円）に318万円。奨学金合計では715万円を給付することが出来ました。

また、戸山教育助成事業は、「豪州サイエンス研修」、「米国サイエンス研修」が2022年度もコロナ禍のため中止されましたので、実績はありませんでした。

2023年度の奨学事業計画は、深井奨学生36名に月々1万円の給付と、大学入学祝い金一人当たり30万円を17名に給付する公益目的奨学事業に、直接費用を含めて1,240万円余の予算を組みました。

また、戸山高校が掲げる「国際社会に貢献するトップリーダーの育成」のミッションに即して、今後とも海外研修奨学助成の重要性が増すことは必至と考え、戸山生に対しての海外研修奨学助成を主に、戸山教育助成予算75万円を組みました。総事業予算は、公益目的奨学事業費、戸山教育助成事業費、管理費等を含め合計1,360万円余の予算を計上致しました。

2023年度の事業計画を実行するに当たり、財源の大半を会員皆様からの寄附金収入に頼らざるを得ず、税制優遇措置（税額控除）が受けられる奨学寄附金収入400万円、及び「使途指定（戸山教育助成）寄附金」収入40万円を計上しております。

以上の点をよろしくご賢察のうえ、本年度も城北会の会員の皆様には一層のご支援とご協力をお願いする次第です。

寄附金収入のうち、城北会年会費と同時に振り込む「口座自動振替ご寄附」（継続賛助会員）は、初年度の2007年度25件からはじまり、2021年度は78件、891,000円で、2022年度は80件、909,000円でした。本年度も、城北会年会費2,000円、奨学基金1,000円と戸山教育助成へ1,000円と是非積み上げてお振込頂きたく、継続賛助会員の皆様には引き続きご協力をお願いいたします。

なお、2022年度の公益財団法人深井奨学財団に関する詳細な決算及び財務諸表は、深井奨学財団定時評議員会による所定の手続を経たうえ深井HPで電子公告いたしますのでご覧願います。

<https://toyamaob.org/zaidan/>